

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。お花見や運動会などを実施し季節感を味わっていただいております。休日には遊具で遊ぶ子供さんがホームに遊びに来られ、利用者様の笑顔に繋がっております。小規模特養と合同で開催される「恵海まつり」は6月の地域のイベント行事として定着しつつあります。地域の方、ご家族とのふれあう機会の場として今後も感謝をこめて、職員一同毎年工夫して継続していきたいと思っております。小規模特養との複合施設のため利用者様が機能低下があっても、リハビリ、入浴設備等を共用するため、安心・安楽の生活に繋げることができると考えています。今後は地域に出向き「介護教室」等を開催し地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域密着型特別養護老人ホームを併設する建物の1階部分にある。「笑顔で、共に、いきいき」という事業所独自の理念を作成し、利用者と一緒に職員は生活を送り、認知症ケアのために大切な「相手の目を見て会話をする」という目標に沿って、同じ目線で寄り添いながら支援している。利用者の笑顔が引き出せる工夫を職員は積極的に取り入れている。レクリエーションや外出、利用者と一緒に焼きそばなどの調理を楽しむなど、いきいきと暮らせる努力を積み重ねている。また、職員一人ひとりには利用者へのサービスの質の向上に力を注ぎ、介護技術などの研修会を開催するなど、意識レベルでの向上にも努めている。法人として事故防止や褥瘡、身体拘束、虐待などの委員会が設置されており、担当職員は話し合った内容を伝達し職員間で情報を共有している。職員は利用者の声に耳を傾けながら、利用者本位のサービスが提供できるよう努めており、利用者が心地よい生活を送り、落ち着いた笑顔を伺うことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 虹

記入者(管理者)
氏名 小笠原博子

評価完了日 平成 26 年 9 月 3 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「笑顔で、共に、いきいきと」をかがやきの理念として掲げ、ユニット内に掲示し常に理念が認識できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所独自の理念を職員全員で考えて作成している。職員は理念に基づき、利用者が笑顔で、日々の生活が送れるようサービスの提供を積み重ねている。また、職員は利用者の生活を中心に考え、環境づくりや心のつながりを大切にしている。「いきいきと」という言葉が含まれている理念通り、地域とのかかわりを持ち続けながら生活ができるよう利用者に配慮した支援をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 東浜自治会に加入し地域の一員として交流している。地域行事(運動会、夏祭り、文化祭等)に職員と共に参加し楽しんでいる。事業所が開催の「第2回恵海祭り」では多数の地域の方の参加をしていただき交流することができた。隣接している公園に来た親子づれが、ユニットに寄ってくれるようになり利用者様の笑顔に繋がった。</p> <p>(外部評価) 近隣公園の散歩時に出会った親子の訪問があり、利用者は大変喜ばれ、事業所全体は明るい笑顔に包まれた。夏祭りなどの地域行事にはできる限り利用者と一緒に参加し交流をしている。小学生のふれあい訪問があり、ゲームと一緒に楽しんだり、小学校の運動会を見学したりするなど、相互の関係づくりをしている。近隣のグループホームの利用者と交流もある。事業所を含む複合施設全体で行われた「恵海祭り」には、多くの地域住民の参加協力があり、盛大に開催されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に関する研修には積極的に参加している。伝達研修を通じて他の職員にも浸透できるようにし、個別の理解や支援方法を学んでいる。地域の方が参加される会議等では、勉強会を取り入れたり質問場面を設定しアドバイスさせていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常生活や行事の様子は映像にて伝え、外部評価・実地指導・ヒヤリハット・事故等については内容を報告している。いただいた質問や意見などは改善点としてユニット会等で話し合い、サービスの向上に生かしている。今年度より地域代表の方にも参加していただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や利用者の生活の様子を伝えている。以前は感染症や食中毒、季節をテーマにした勉強会を併せて開催していたが、施設長や管理者は内容を豊かにするため試行錯誤している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険制度の改正時は疑問点を聞き説明を受けている。運営推進会議に市の介護福祉課より1名参加していただいているので助言を受けたり、事業所の取組みをアピールし協力をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらうほか、アドバイスをもらっている。介護保険制度の疑問点や救急時の対応、事故報告など、市担当者との連絡を取り解決に繋げるなど、良好な関係を築いている。地域包括支援センターからは、定期的に待機者の問い合わせがある。また、2か月に1回、介護相談員の訪問があり、利用者の話を傾聴している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在身体拘束の具体的な行為は行っていない。2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、職員の日常の行動や発言が身体拘束になっていないか話し合っている。又毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、身体拘束をしないケアが大切であることの理解を促している。</p> <p>(外部評価) 法人内に身体拘束委員会が設置されており、担当者も話し合いに参加している。委員会で話し合った資料や内容は、職員全員に申し送り時に伝達し共有している。利用者が皮膚のかゆみをよくかくため、安全面を考え家族の了承を得て、ミトンを使用した場合があるが、早急に別の対応方法を検討している。また、日中玄関は開放し、利用者は自由に出入りすることができる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回委員会を開催し日常の職員の行動や言動が虐待になっていないか話し合っている。議事録にて全職員に認識するよう促している。毎年1回全職員対象の勉強会を実施しマニュアル等に基づいて、発見時の対応方法などを周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 毎年、研修には参加し理解を深めている。利用者様個々の状況に応じて、必要時には支援できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料金を変更する場合は、文章による通知と口頭で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者様参加していただき意見、要望等を伺うようにしている。意見箱も設置している。市の介護相談員も定期的に訪問していただき利用者様と面談を実施し、得られた意見、苦情については即運営に反映、又改善できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議などの訪問時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。家族から出された要望は真摯に受け止め、ユニット会などで内容や解決策を話し合い対応している。介護相談員から利用者の新たな意見を聞くこともあり、迅速に対応している。利用者や家族とのコミュニケーションのあり方の勉強会に職員は参加し、関係づくりを大切にしており、家族が意見を言いやすい雰囲気ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 事業所内で実施している全体会、所属長会（1回/月）、ユニット会（1回/2ヶ月）、人事考課面接（2回/年）等で職員の意見を聞き、反映できるよう努め働きやすい職場作りに努めている。 (外部評価) 職員は、全体会やユニット会で管理者等に意見や提案を伝えることができる。施設長や管理者に職員が気づいたことを伝えており、サービス向上に向けて一緒に考えたり、職員間で話し合いができています。職員から出された意見は必要により迅速に解決されるものもあり、職員は働きがいを感じている。また、年2回個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎月2回事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。管理者とは個別に毎回面談を実施している。人事考課では半年間の目標を確認し達成できるようにフォローしている。今年度より夏休みの増加福利厚生補助額アップし施行している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加できるようにしている。報告会及び必要に応じて伝達研修を実施している。各資格取得については所属長が勤務の便宜を図り、勤務しながら取得できている。毎月「介護技術」「認知症」の勉強会を実施し職員の育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修・各種研修に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。また近隣の同業者とは、それぞれイベントに参加し、防災訓練なども協力体制をとっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後、自宅訪問し本人の困っていることふあんなこと、どのような希望を持っているかをゆっくり聞き、入居時に少しでも信頼に繋がるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、既往歴、家族としての気持ちを十分に聞き取り話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告をし、面会時にご家族に対して職員から声掛けし訪問しやすい雰囲気をつくるように心がけ家族からのアドバイスも参考にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前面接で在宅生活での状況把握をしっかり実施し、現在本人・家族が最も必要としているサービスを見極めニーズにあったサービスを提供できるように話し合いを行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で入居者ができることを、一緒に負担にならないように協働しながら生活をしている。一緒に園庭の草取りをしたり、ご家族持参の花で生け花をしてユニット内に飾り、環境を良くしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会、家族との外出の時間等ふれあう時間を大切にし支えていく。本人の希望を叶えるために、ご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 在宅生活時の知人や友人の訪問があり会話を楽しんだり、よく行っていた喫茶店に行ったり、以前から利用している美容院に行くなど、これまでの交流を継続的にできるよう支援している。 (外部評価) 近隣に住んでいた利用者が多く、友人や知人の訪問が多くあり、職員は快く受け入れている。馴染みの喫茶店や美容室も近くにあり、出かけられるよう支援している。職員は機会を見て家族から馴染みの関係を聞き、継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席や活動時のメンバー等は、気の合う方と楽しく暮らせるよう配慮している。時々他ユニットに気の合う方がおられる方もいるため交流の機会をつくっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設の為「かがやき」を退所し、「うみかぜ」を利用となった時は、本人・家族との相談や支援に努めているが、他の方についてはほとんど関わりをしていない。稀に入所申し込みについて紹介して頂けるときがあるので関わりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の一部を取り入れ、各担当者が一人ひとりの意向を聞きアセスメントを実施するようにしている。本人の意向とご家族の意向が異なる場合は、再度家族と話し合い、できるだけ本人の意向に添えるように努力している。 (外部評価) 利用開始時に利用者や家族から思いや意向を聞き把握しているが、入居して年月が経つと利用者の思いと家族の意向が異なることもあり、再度家族と話し合いをすることもある。職員は利用者にとって何が心地よいサービスかを考え、一人ひとりの思いを確認し情報を共有している。日々の会話の中で思いを言うことが多く、利用者の声に耳を傾けながら、利用者本位のサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) こちらから入所時に生活歴等を確認し把握するように努めている。又、サービスを利用するようになった経緯や利用中の様子など、ご家族や居宅ケアマネから情報を収集している。草引き、園芸、洗濯物たたみ、食器あらいなど生活の中でのひとこまを一緒に実施している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの身体面や精神面については、発言、行動、仕草等を24時間シートを使用して把握に努めている。本人のできることと、できないことについては職員と一緒に実施し判断し職員間で話し合うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会やカンファレンスでは意見を出し合い、入居者様やご家族、担当スタッフの意見を取り入れ計画作成担当者がケアプランを作成している。毎月モニタリングを実施し、計画の見直しは6ヶ月に1回実施し変化に応じてその都度計画を変更している。日々の介護記録は職員全員で共有している。 (外部評価) 利用者毎の担当者がアセスメントを行い、ユニット会で話し合い、職員間で情報を共有している。利用者や家族の意見や希望を反映して、介護計画を作成している。6か月に1回、介護計画の見直しをしているほか、状態の変化に応じて、その都度話し合い見直しをすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケースには日々の様子を詳細に記録し、健康表には食事・水分量、排泄の状況が一目でわかるよう記録し申し送りを密に行い情報が共有でき統一したケアができるように努めている。介護計画の見直しには有効に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人が外食や買い物、家に帰りたいと言われた時など、できる限り希望に添えるようにしている。又、受診時車の手配ができない家族に送迎を行った。日頃の感謝を込めて家族と職員がふれ合う懇親会を実施し、信頼関係の強化に努めた。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回介護相談員さんの訪問、週1回のパンの移動販売2ヶ月1回の訪問理美容を実施し、ほとんどの利用者様が活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診で きるよう支援している。家族が遠方などで同行できない場合 や緊急時には職員が代行し受診介助をしている。受診状況等 は双方が詳しく報告する。入所前から往診してくれるかかり つけ医を利用している入居者様もいる。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 継続してもらうことを基本として支援している。家族が同行 できない場合や緊急時には、職員が受診介助をしている。協 力医は総合病院のため、近隣の診療所を受診することも多 い。今後、利用者の健康診断や管理をどのようにしていく か、検討している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入居者様の身体・精神面の気づきや、異常・急変時には看護 師に報告し指示を得るなど連携している。夜間、休日等は必 要に応じてオンコール体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時当施設から医療機関へ生活の様子を報告している。入 院期間中も定期的に面会し病院関係者や家族と話し合い情報 を交換している。協力病院や法人内メンバーとの会合をも ち、連携を強化している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については入居契約時に説明し、必要時は主 治医との連携を密にし、家族・本人の意向に添えるよう話し 合っている。1回/年看護師による勉強会、外部研修にも参 加し報告内容を共有している。現在1名、主治医、ご家族、 看護師等にて話し合いをしながら、施設での終末を希望され ている方への対応を実施している。 (外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、事業 所として対応できる内容を契約時に利用者や家族に詳しく説 明している。施設長や管理者は医療行為のできない事業所 での看取り支援には限界があると考えているが、利用者や家族 の要望に沿った支援も検討している。段階に応じて、医師を 交えて家族等と話し合いを行い、意向を確認している。ま た、職員は看取り支援などの勉強会に参加し、知識を深めて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフが慌てず応急手当や初期対応ができるようにマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した場合の不安はある。今後も定期的にAED等の勉強会を実施し、新人職員優先に、外部研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、「特養うみかぜ」と合同の避難訓練を消防署の協力を得て、昼夜を想定して実施している。近隣の事業所と協力体制をにてお互いの訓練時に職員1名参加している。備蓄品も用意している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、複合施設が合同で避難訓練を実施している。海が近くにあるため、地震発生時には津波も予想され、複合施設の3階まで実際に利用者と一緒に避難する訓練をしている。昼間と夜間を想定した訓練を実施しているが、利用者の避難方法など課題は山積している。火災時には、近隣のグループホームと相互の協力体制を築いている。また、災害発生時に備え、食料など3日分の備蓄品を用意している。	年2回継続した避難訓練を重ね、消防署にアドバイスをもらいながら一つひとつ課題の改善に取り組んだり、災害時には臨機応変に対応できるよう職員全員の災害への意識向上を期待したい。また、緊急連絡網を活用した連絡体制の確認をすることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) H25年9月～H26年5月にかけて、法人職員全員対象の接遇研修を実施した。具体的な行動として「相手の目をみて会話をする」という恵海の目標を掲げ、一人ひとりの人格を尊重する対応にこころがけています。 (外部評価) 「相手の目を見て会話する」という目標があり、職員は認知症ケアの重要ポイントとなることを認識して実践している。また、職員全員は利用者が落ち着いて笑顔で生活できるよう心がけ、いつも声かけなどの対応をしている。特にオムツ交換やトイレ誘導、居室への入室時にノックする場合にも、利用者のプライバシーの確保を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1回/週の選択食、1回/月のモーニングバイキングを実施し一人ひとり好きなものを選んでいただくようにしている。買い物、ドライブ、外出については希望があればすぐ実行できるように努めている。ケアプラン見直し時にはケアマネが面接し希望、要望等を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 身体面の個別のレベルにあった過ごし方に対しては、今後もっと積極的に取り組む必要がある。特に介護度の低い方から退屈しているとの声もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問理美容ではなく、在宅の時から馴染みの美容室を希望される方は、ご家族の協力を得て実施している。朝の更衣時、自分で選んだものを着ていただいたり、気に入った洋服を連続してきている方には、さりげなく他の洋服もすすめるなど支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的には厨房で調理しているが、メニューに応じて（お好み焼き、焼きそば、おでん、鍋物等）ユニット内の利用者様の目の前で調理している。毎年夏には恒例のソーメン流しを実施している。おやつ作りは利用者様と一緒にユニット内で行っており、楽しみにしている。 (外部評価) 複合施設の厨房で、外部委託している業者のスタッフが調理している。事業所でご飯を炊いたり、食材を温め直したり、配膳などを行っている。焼きそばや鍋物など利用者の目の前で簡単にできる献立の場合は、できる限り利用者と一緒に調理を楽しんでいる。利用者は下膳や盛り付けなどできることを一緒に手伝っている。行事には特別な行事食を用意している。施設長や管理者は外部委託することにより職員が調理に費やす時間や負担がかからず、空いた時間で少しでも多く利用者と一緒に過ごす時間が取れるよう支援している。また、外食を取り入れ、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供している。摂取量については個別の健康表にて把握している。水分補給はお茶を好まない方には、好みの飲み物を準備し細目に提供し摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし口腔ケアを実施している。自力、一部介助、全介助とさまざまであるが、その方にあった援助を実施している。義歯は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的にトイレ誘導したり、行動の変化を観察し定期的にトイレ誘導を実施し排泄パターンを把握し自立に向けて支援を行っている。1名日中紙パンツの使用を止め布パンツに変更した。	
			(外部評価) 利用者がトイレで排泄できるよう支援しているため、早めの声かけをして誘導し、一人ひとりの自立を促している。夜間帯のみ睡眠を優先するなど、状態に合わせて紙パンツを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤服用者もいるができる限り散歩等にて運動したり、水分摂取や食べ物(サツマイモ)等にて自然排便できるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 生活のパターンが定着してきたため午後入浴される方が多くなっている。午前中に入浴を希望される時は希望に応じるようにしている。複合施設となっているため、身体機能に応じて機械浴も使用可能である。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を利用者は心待ちにしている。事業所での入浴を拒み、職員のあらゆる対応でも無理な利用者には、自宅に帰り入浴してもらったこともある。季節によりシャワー浴のみで済ませる場合もあるが、失禁時には清潔保持のため入浴してもらう対応をしている。個浴槽は3方向から安全に介助しやすい構造となっている。また、複合施設内には特殊浴槽もあり、利用者の状態に応じて使用し、利用者の安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないよう、昼間活動を促している。夜間安眠できていない時は、短時間の昼寝を促し身体が休息できるよう配慮している。起床や入眠時間については希望に合わせて対応を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用中の薬については、薬の説明書をケースに入れスタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。変更時には必ず申し送り、状態観察を行うようにしている。誤薬防止のためダブルチェックする体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中でできることや、一部介助でできることを援助しながら観察している。書写、観音様への参拝、洗濯物干し・たたみ、草引き等一人ひとりの好みに応じて支援している。定期的にご家族より利用者様の自宅庭よりお花を持参して下さり、他の利用者様と一緒に生け花を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内の庭に観音像があり戸外の散歩時には必ず立ち寄っている。グループ外出では喫茶店でのお茶会、スーパーでの買い物、外食では回転寿司や昔よく行かれていたホテルのランチなども実施した。ユニット全体では外出の年間計画に沿って実施している。 (外部評価) 月1回、遠出の外出計画を立て、イチゴ狩りや花見などドライブを楽しんでいる。行き先は職員が事前に下見を行い、トイレや車いすの利用などを確認している。散歩時には敷地内にある観音像に立ち寄り、近隣のグループホームの利用者の訪問もあり、交流が続いている。スーパーに買い物に出かけるなど、利用者が外気に触れ気分転換できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は1名のみお金を所持している。他の利用者様についてはホームで預かっている。時々お金の心配をされる方については、職員が説明を十分に実施し、安心して生活できるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでも使用できることを声掛けしている。ご家族に連絡をしてほしいとの依頼を受けたときは、早く対応し必要に応じて、本人に取り次ぐ等している。手紙やはがきについては、依頼時に職員が投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・居間は和の雰囲気があり、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。共同生活室や談話コーナーにはソファ等を配置し、ゆっくりくつろげるように配慮している。壁には季節の作品を創って飾ったり、ユニット活動の様子の写真を展示して季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共有空間の清掃と室温や湿度管理が行き届き、利用者は気持ち良く生活を送ることができる。ユニットは、玄関を挟み左右対称の構造になっている。談話コーナーから中庭が眺められ、外部から光を取り入れ、明るすぎない空間となっている。季節感を味わうことができるよう、壁面を上手に利用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいりりや、共同生活室のテーブルの配置はその都度変え、利用者様が穏やかに過ごすことができるように配慮している。他に談話コーナーや畳のスペースも確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはベット、洗面台、クローゼットが完備している。自宅で使用していたダンス、テレビ、ソファ、仏壇等持参していただき本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドのある洋室と畳敷きの和室があり、利用者の生活習慣や状態により、使い分けをしている。利用者の不穏を解消するため、昔懐かしい品を家族の協力のもと持ち込んでいる利用者もいる。居室はすっきり整えられ、清潔で広々と使われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様から見やすいように展示物の位置、ごみ箱の配置に配慮している。トイレを大きく表示することによって迷わず自力で使用することができている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38905003803
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。お花見や運動会などを実施し季節感を味わっていただいております。休日には遊具で遊ぶ子供さんがホームに遊びに来られ、利用者様の笑顔に繋がっております。小規模特養と合同で開催される「恵祭り」は6月の地域のイベント行事として定着しつつあります。地域の方、ご家族とのふれあう機会の場として今後も感謝をこめて、職員一同毎年工夫しながら継続していきたいと思っております。小規模特養との複合施設の為に利用者様が機能低下があっても、リハビリ、入浴設備等を共用できるため安心・安全の生活に繋げることができるとかかっています。今後は地域に出向き「介護教室」等を開催し地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域密着型特別養護老人ホームを併設する建物の1階部分にある。「笑顔で、共に、いきいき」という事業所独自の理念を作成し、利用者と一緒に職員は生活を送り、認知症ケアのために大切な「相手の目を見て会話をする」という目標に沿って、同じ目線で寄り添いながら支援している。利用者の笑顔が引き出せる工夫を職員は積極的に取り入れている。レクリエーションや外出、利用者と一緒に焼きそばなどの調理を楽しむなど、いきいきと暮らせる努力を積み重ねている。また、職員一人ひとりは利用者へのサービスの質の向上に力を注ぎ、介護技術などの研修会を開催するなど、意識レベルでの向上にも努めている。法人として事故防止や褥瘡、身体拘束、虐待などの委員会が設置されており、担当職員は話し合った内容を伝達し職員間で情報を共有している。職員は利用者の声に耳を傾けながら、利用者本位のサービスが提供できるよう努めており、利用者が心地よい生活を送り、落ち着いた笑顔を伺うことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 絆

記入者(管理者)

氏名 小笠原 博子

評価完了日 平成 26 年 9 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「笑顔で、共に、いきいきと」をかがやきの理念として掲げ、ユニット内に掲示し常に理念が認識できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所独自の理念を職員全員で考えて作成している。職員は理念に基づき、利用者が笑顔で、日々の生活が送れるようサービスの提供を積み重ねている。また、職員は利用者の生活を中心に考え、環境づくりや心のつながりを大切にしている。「いきいきと」という言葉が含まれている理念通り、地域とのかかわりを持ち続けながら生活ができるよう利用者に配慮した支援をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 東浜自治会の一員として地域行事(運動会・夏祭り・文化祭等)に参加し楽しんでいる。事業所合同の「2回恵海祭り」では多数の地域の方の参加をいただき交流することができた。地域の親子連れが遊びに来てくれて利用者様の笑顔に繋がった。</p> <p>(外部評価) 近隣公園の散歩時に出会った親子の訪問があり、利用者は大変喜ばれ、事業所全体は明るい笑顔に包まれた。夏祭りなどの地域行事にはできる限り利用者と一緒に参加し交流をしている。小学生のふれあい訪問があり、ゲームと一緒に楽しんだり、小学校の運動会を見学したりするなど、相互の関係づくりをしている。近隣のグループホームの利用者と交流もある。事業所を含む複合施設全体で行われた「恵海祭り」には、多くの地域住民の参加協力があり、盛大に開催されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に関する研修には積極的に参加している。伝達研修を通じて他の職員にも浸透できるようにし、利用者様個々の理解や支援方法を学んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常生活や行事の様子は映像にて伝え、外部評価・実地指導・ヒヤリハット・事故等については内容を報告している。いただいた質問や意見などは改善点としてユニット会等で話し合い、サービスの向上に生かしている。今年度より地域代表の方にも参加いただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や利用者の生活の様子を伝えている。以前は感染症や食中毒、季節をテーマにした勉強会を併せて開催していたが、施設長や管理者は内容を豊かにするため試行錯誤している。</p>	会議では現在の内容に加え、地域住民を対象とした研修や避難訓練を合わせて実施するなど、工夫をして開催することを期待したい。また、会議の年間計画を年度当初に早期に作成し、職員が無理なく交替で参加できることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険制度の改正時は、疑問点を聞き説明をうけている。運営推進会議に市の介護福祉課より1名参加していただいているので助言を受けたり、事業所の取組みをアピールし協力をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらうほか、アドバイスをもらっている。介護保険制度の疑問点や救急時の対応、事故報告など、市担当者との連絡を取り解決に繋げるなど、良好な関係を築いている。地域包括支援センターからは、定期的に待機者の問い合わせがある。また、2か月に1回、介護相談員の訪問があり、利用者の話を傾聴している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在身体拘束の具体的な行為は行っていない。2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、職員の日常の行動や発言が身体拘束になっていないか話し合っている。又毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、身体拘束をしないケアが大切であることの理解を促している。</p> <p>(外部評価) 法人内に身体拘束委員会が設置されており、担当者も話し合いに参加している。委員会で話し合った資料や内容は、職員全員に申し送り時に伝達し共有している。利用者が皮膚のかゆみをよくかくため、安全面を考え家族の了承を得て、ミトンを使用した場合があるが、早急に別の対応方法を検討している。また、日中玄関は開放し、利用者は自由に出入りすることができる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回委員会を開催し日常の職員の行動や言動が虐待になっていないか話し合っている。議事録にて全職員に認識するよう促している。毎年1回全職員対象の勉強会を実施しマニュアル等に基づいて、発見時の対応方法など周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 毎年研修に参加し理解を深めている。利用者様個々の状況に応じて、必要時には支援できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料金を変更する場合は、文章による通知とこうとうで説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には毎回異なる家族や利用者様に参加していただき意見、要望等を伺うようにしている。意見箱も設置している。市の介護相談員も定期的に訪問し面談後の苦情や要望については改善するなど運営に反映するよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議などの訪問時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。家族から出された要望は真摯に受け止め、ユニット会などで内容や解決策を話し合い対応している。介護相談員から利用者の新たな意見を聞くこともあり、迅速に対応している。利用者や家族とのコミュニケーションのあり方の勉強会に職員は参加し、関係づくりを大切にしており、家族が意見を言いやすい雰囲気ができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 事業所内で実施している全体会、所属長会（1回/月）、ユニット会（1回/2ヶ月）、人事考課面接（2回/年）等で職員の意見を聞き反映できるよう努め、働きやすい職場づくりに努めている。	
			(外部評価) 職員は、全体会やユニット会で管理者等に意見や提案を伝えることができる。施設長や管理者に職員が気づいたことを伝えており、サービス向上に向けて一緒に考えたり、職員間で話し合いができています。職員から出された意見は必要により迅速に解決されるものもあり、職員は働きがいを感じている。また、年2回個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎月2回事業所を訪れ職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。管理者とは個別に毎回面談を実施している。人事考課面接では半年間の目標を確認し達成できるようにフォローしている。今年度より夏休みの増加、福利厚生補助額をアップし働きやすい職場環境に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加できるようにしている。報告会及び必要に応じて伝達研修を実施している。各資格取得については所属長が勤務の便宜を図り勤務しながら取得できている。毎月「介護技術」「認知症」の勉強会を実施し職員の育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修・各種研修に参加し、同業者との交流や勉強の機会を得ている。また近隣の同業者とはお互いのイベントに参加し、防火訓練等も協力体制をとっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後自宅訪問し本人の困っていることや不安なこと、どのような希望を持っているかをゆっくり聞き、入居時の安心感に繋がるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、既往歴、家族の気持ちを十分に聞き話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告し、家族面会時は職員から声掛けし訪問しやすい雰囲気をつくるように心がけ家族からのアドバイスも参考にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居面接で在宅生活での状況把握をし、現在本人・家族が最も必要としている援助を見極めニーズにあったサービスを提供できるように話し合いをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中の入居者ができることを一緒に負担にならないように協議しながら生活をしている。一緒に園庭の草取りをしたり、ご家族持参の花で生け花をしてユニット内に飾り環境面を良くしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族との外出時等ふれあう時間を大切にしながら支えていく。本人の希望を叶えるためにご家族にも協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人の訪問があり会話を楽しんだり在宅生活時に利用していた喫茶店に行ったり、以前から通っている美容院に行ったり、ランチに出かけたりこれまでの交流を継続的に実施できるよう支援している。 (外部評価) 近隣に住んでいた利用者が多く、友人や知人の訪問が多くあり、職員は快く受け入れている。馴染みの喫茶店や美容室も近くにあり、出かけられるよう支援している。職員は機会を見て家族から馴染みの関係を聞き、継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席や活動時のメンバー等は、気の合う方と楽しく暮らせるよう配慮している。時々他ユニットとの交流の機会をつくるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設の為「かがやき」を退所し「うみかぜ」を利用となった時は、本人・家族との相談や支援に努めているが、他の方についてはほとんど関わりをしていない。退園時には今後の相談についての声掛けはしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の一部を取り入れ各担当者が一人ひとりの意向を聞きアセスメントを実施するようにしている。本人とご家族の意向が異なる場合は、再度家族と話し合いできるだけ本人の意向に添えるように努力している。 (外部評価) 利用開始時に利用者や家族から思いや意向を聞き把握しているが、入居して年月が経つと利用者の思いと家族の意向が異なることもあり、再度家族と話し合いをすることもある。職員は利用者にとって何が心地よいサービスかを考え、一人ひとりの思いを確認し情報を共有している。日々の会話の中で思いを言うことが多く、利用者の声に耳を傾けながら、利用者本位のサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に生活歴等を確認し把握するように努めている。又サービスを利用するようになった経緯や利用中の様子など、ご家族やケアマネから情報を収集している。ご家族に手紙を書いたり、園芸、洗濯物干し・たたみ、食器洗いなど生活の中でのひとこまを一緒に実施している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの身体面や精神面については24時間シーに落とし込み把握に努めている。本人のできることとできないことについては、職員と一緒にい見極め職員間で話し合うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様やご家族、担当スタッフ等の意見を取り入れ計画作成担当者がケアプランを作成している。ユニット会や、カンファレンスは意見を出し合いモニタリングを実施している。計画の見直しは6ヶ月に1回実施し変化に応じてその都度計画を変更している。日々の介護記録は職員全員で共有している。 (外部評価) 利用者毎の担当者がアセスメントを行い、ユニット会で話し合い、職員間で情報を共有している。利用者や家族の意見や希望を反映して、介護計画を作成している。6か月に1回、介護計画の見直しをしているほか、状態の変化に応じて、その都度話し合い見直しをすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケースには日々の様子を詳細に記録し、健康表には食事・水分量・排泄の状況が一目でわかるように記録し申し送りを密に行い、情報が共有でき統一したケアができるように努めている。計画の見直し時には有効に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様が外食や買い物、自宅に帰りたいと言われた時などできる限り希望に添えるようにしている。又受診時車の手配ができない家族に送迎を行った。日頃の感謝をこめて家族と職員がふれ合う懇親会を実施し信頼関係の強化に努めた。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回介護相談員の訪問、週1回のパンの移動販売、2ヶ月1回の訪問理美容を実施しほとんどの利用者様が活用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診で きるよう支援している。家族が同行できない場合や緊急時に は職員が代行し受診介助している。受診状況等は双方が詳しく 報告する。入所前から往診してくれるかかりつけ医を利用 している入居者様もいる。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 継続してもらうことを基本として支援している。家族が同行 できない場合や緊急時には、職員が受診介助をしている。協 力医は総合病院のため、近隣の診療所を受診することも多 い。今後、利用者の健康診断や管理をどのようにしていく か、検討している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 入居者様の身体・精神面の気づきや、異常・急変時には看護 師に報告し指示を得るなど連携している。夜間、休日等には 必要に応じてオンコール体制を整えている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時当施設から医療機関へ生活の様子を報告している。入 院期間中も定期的面会し病院関係者や家族と話し合い情報を 交換している。協力病院や法人内メンバーとの会合をもち、 連携を強化している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期については契約時に説明し主治医との連携を 密にし、家族・本人の意向に添えるように話し合っている。 看護師による勉強会の実施、又外部研修にも参加し内容を共 有している。主治医・家族・看護師・介護職にて話し合い終 末希望されてきた対応を実施。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、事業 所として対応できる内容を契約時に利用者や家族に詳しく説 明している。施設長や管理者は医療行為のできない事業所 での看取り支援には限界があると考えているが、利用者や家 族の要望に沿った支援も検討している。段階に応じて、医師を 交えて家族等と話し合いを行い、意向を確認している。ま た、職員は看取り支援などの勉強会に参加し、知識を深めて いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し応急手当等の初期対応ができるように努めている。今後も定期的にAED等の勉強会を実施し、新人職員を優先的に外部研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回昼夜を想定して「特養うみかぜ」と合同の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。近隣の事業所と協力体制にてお互いの訓練時に職員1名参加している。備蓄品も用意している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、複合施設が合同で避難訓練を実施している。海が近くにあるため、地震発生時には津波も予想され、複合施設の3階まで実際に利用者と一緒に避難する訓練をしている。昼間と夜間を想定した訓練を実施しているが、利用者の避難方法など課題は山積している。火災時には、近隣のグループホームと相互の協力体制を築いている。また、災害発生時に備え、食料など3日分の備蓄品を用意している。	年2回継続した避難訓練を重ね、消防署にアドバイスをもらいながら一つひとつ課題の改善に取り組んだり、災害時には臨機応変に対応できるよう職員全員の災害への意識向上を期待したい。また、緊急連絡網を活用した連絡体制の確認をすることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) H25年9月～H26年5月にかけて、法人職員全員対象の接遇研修を実施した。具体的な行動として「相手の目を見て会話をする」を恵海目標に追加し一人ひとりの人格を尊重する対応に心がけている。 (外部評価) 「相手の目を見て会話する」という目標があり、職員は認知症ケアの重要ポイントとなることを認識して実践している。また、職員全員は利用者が落ち着いて笑顔で生活できるよう心がけ、いつも声かけなどの対応をしている。特にオムツ交換やトイレ誘導、居室への入室時にノックする場合にも、利用者のプライバシーの確保を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 週1回の選択食、月1回のモーニングバイキングを実施し一人ひとり好きなものを選んでいただくようにしている。買い物、ドライブ、外出については希望に応じてすぐ実行できるように努めている。ケアプラン見直し時にはケアマネが面接し希望、要望等を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 身体面の個別のレベルにあった過ごし方に対しては、今後もっと積極的に取り組む必要がある。特に介護度の低い方から退屈しているとの声もある。外出などの希望に対してもすぐ実施できるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問理美容ではなく、在宅の時から馴染みの美容室を希望される方は、ご家族の協力を得て実施している。朝の更衣時自分で選んだものを着ていただいたり、連続してきている方にはさりげなく他の洋服も勧めるなど支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的には厨房で調理しているが、お好み焼き、焼きそば、おでん、鍋物等については、利用者様の目の前で調理している。毎年夏には恒例のソーメン流しを実施している。おやつ作りは利用者様と一緒にユニット内で楽しみながら実施している。	
			(外部評価) 複合施設の厨房で、外部委託している業者のスタッフが調理している。事業所でご飯を炊いたり、食材を温め直したり、配膳などを行っている。焼きそばや鍋物など利用者の目の前で簡単にできる献立の場合は、できる限り利用者と一緒に調理を楽しんでいる。利用者は下膳や盛り付けなどできることを一緒に手伝っている。行事には特別な行事食を用意している。施設長や管理者は外部委託することにより職員が調理に費やす時間や負担がかからず、空いた時間で少しでも多く利用者と一緒に過ごす時間が取れるよう支援している。また、外食を取り入れ、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供している。摂取量については個別の健康表にて把握している。お茶を好まない方の水分補給は、好みのジュース等を準備し細目に提供し摂取していただく。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後こ声掛けし口腔ケアを実施している。自力、一部介助、全介助とさまざまであるが利用者様にあった援助を実施している。義歯は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行動の変化を観察しながら定期的にトイレ誘導し排泄パターンを把握し自立に向けて支援を行っている。1名日中紙パンツの使用を止め布パンツに変更した。	
			(外部評価) 利用者がトイレで排泄できるよう支援しているため、早めの声かけをして誘導し、一人ひとりの自立を促している。夜間帯のみ睡眠を優先するなど、状態に合わせて紙パンツを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤服用者もいるができる限り散歩などにて運動したり、水分摂取や繊維質な食物等にて自然排便できるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 生活パターンが定着してきたため午後入浴される方が多くなっている。午前中に希望される時には応じるようにしている。複合施設となっているため身体機能に応じて機械浴も使用可能である。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を利用者は心待ちにしている。事業所での入浴を拒み、職員のあらゆる対応でも無理な利用者には、自宅に帰り入浴してもらったこともある。季節によりシャワー浴のみで済ませる場合もあるが、失禁時には清潔保持のため入浴してもらう対応をしている。個浴槽は3方向から安全に介助しやすくなる構造となっている。また、複合施設内には特殊浴槽もあり、利用者の状態に応じて使用し、利用者の安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないように昼間活動を促している。夜間安眠できていない時は、短時間の昼寝を促し身体が休息できるよう配慮している。起床や入眠時間については希望にあわせて対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用中の薬については薬の説明書をケースに入れスタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。変更時には必ず申し送り、状態観察を行うようにしている。誤薬防止のためダブルチェックする体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中でできることや一部介助でできることを援助しながら観察している。書写、観音様への参拝、洗濯物干し・たたみ一人ひとりの好みに応じて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内の庭に観音像があり戸外の散歩時には必ず立ち寄っている。グループ外出では喫茶店でのお茶会、スーパーでの買い物、外食では回転寿司や昔良く行かれていたホテルのランチなども実施した。ユニット全体では外出の年間計画に沿って実施している。 (外部評価) 月1回、遠出の外出計画を立て、イチゴ狩りや花見などドライブを楽しんでいる。行き先は職員が事前に下見を行い、トイレや車いすの利用などを確認している。散歩時には敷地内にある観音像に立ち寄り、近隣のグループホームの利用者の訪問もあり、交流が続いている。スーパーに買い物に出かけるなど、利用者が外気に触れ気分転換できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在3名のみお金を所持している。他の利用者様についてはホームで預かっている。時々お金の心配をされる方については職員が説明を十分に実施し、安心して提供できるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでも使用できることを声掛けしている。ご家族への連絡の依頼を受けたときは、早く対応し必要に応じて本人に取り次いでいる。手紙やはがきについては、依頼時に職員が投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・居間は和の雰囲気があり、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。共同生活室や談話コーナーにはソファを配置し、ゆっくりくつろげるように配置している。壁には季節の作品を作って飾ったり、ユニット活動の写真を展示して季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 共有空間の清掃と室温や湿度管理が行き届き、利用者は気持ち良く生活を送ることができる。ユニットは、玄関を挟み左右対称の構造になっている。談話コーナーから中庭が眺められ、外部から光を取り入れ、明るすぎない空間となっている。季節感を味わうことができるよう、壁面を上手に利用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいりりや、共同生活室のテーブルの配置はその都度かえ、利用者様が穏やかに過ごす事ができるよう配慮している。他に談話コーナーや畳のスペースも確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはベット、洗面台、クローゼットが完備している。自宅で使用していたダンス、テレビ、ソファ、仏壇等持参して頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドのある洋室と畳敷きの和室があり、利用者の生活習慣や状態により、使い分けをしている。利用者の不穏を解消するため、昔懐かしい品を家族の協力のもと持ち込んでいる利用者もいる。居室はすっきり整えられ、清潔で広々と使われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様から見やすいように展示物の位置、ごみ箱の配置に配慮している。トイレを大きく表示することによって迷わず自力で使用することができている。</p>	